

- ☑ SEF 百瀬理事・高橋顧問がベルリンで食品ロス・食品廃棄物の削減に向けた取組事例を発表
- ☑ 環境省が食品廃棄物の不正転売事案について（総括）を公表



資源循環事業 TOPICS

SEF 百瀬理事・高橋顧問がベルリンで食品ロス・食品廃棄物の削減に向けた取組事例を発表 ～2030 アジェンダ達成に向けた G7 協調行動ワークショップ（第 1 回）～

去る 6 月 20 日、ドイツの首都ベルリンにおいて、日本の環境省とドイツの環境省との共催により、2030 アジェンダ達成に向けた持続可能な消費と生産に関する G7 協調行動ワークショップ（第 1 回）が開催され、SEF の百瀬理事と高橋顧問が、食品ロス・食品廃棄物削減に向けた取組事例発表のため参加しました。

2016 年 5 月に開催された G7 富山環境大臣会合において、G7 各国は SDGs の環境側面の実施に向けて協調して行動していくこと（G7 協調行動）を合意しており、今回のワークショップはその第 1 歩として開催されたものです。ワークショップでは、「環境ラベル等の消費者情報の活用」「食品ロス・食品廃棄物の削減」「持続可能なライフスタイルと教育の実施」の 3 テーマについて、取組事例や知見の共有がなされ、活発な議論が行われました。

そのうちの「食品ロス・食品廃棄物の削減」に関するセッションのなかで、SEF 理事でユニー株式会社上席執行役員の百瀬則子氏、SEF 顧問で株式会社日本フードエコロジーセンター代表取締役の高橋巧一氏が登壇しました。セッションでは初めに環境省リサイクル推進室より、食品ロス・食品廃棄物をめぐる世界の現状や、世界に先駆けて制定された食品リサイクル法の概要等の説明がありました。

続いて百瀬理事が登壇し、ユニー株式会社の取組事例として、スーパーマーケットが食品廃棄物の削減に果たせる役割として、食品廃棄物の分別の徹底による削減や肥飼料化を核とした地域の農業生産者及び消費者と一体となった食品リサイクルループの構築、環境体験活動などの取組について発表しました。

その後高橋顧問が登壇し、株式会社日本フードエコロジーセンターの取組事例として、食品廃棄物の飼料化や当該飼料を利用したブランド肉の生産等によるリサイクルループの構築や、農業高校との連携等を通じた食育活

動、大学・学術機関等と協力したエコフィードの研究・開発などの取組について発表しました。

これらの発表を受け、セッションでは食品廃棄物に関する規制・法制度によって新たな循環型ビジネスモデルが創出されることへの期待が共有され、また食品廃棄物問題が他のSDGsの達成を左右する可能性があることから、G7が率先して行動を呼びかけていくことの重要性が指摘されました。

このワークショップに関する詳しい内容は、環境省ホームページからご覧いただけます。

<http://www.env.go.jp/press/104199.html>

食品廃棄物の不正転売事案について（総括）を公表（環境省）

環境省は6月20日、平成28年1月に発覚した食品廃棄物不正転売事案について、不適正保管されていた食品廃棄物の撤去等が完了し、事案の全容が概ね明らかになったことを踏まえ、「食品廃棄物の不正転売事案について（総括）」として、課題と対応を取りまとめ公表しました。

総括では、事案の発生から全容解明までの経緯と、再発防止のための対応について取りまとめられています。再発の防止については、

- （1）都道府県等・環境省による監視の強化
- （2）排出事業者責任の徹底
- （3）排出事業者や行政によるマニフェストを通じた廃棄物処理の確認
- （4）事案の発覚後の対応

の4点において、それぞれの課題と対応策を取りまとめています。

「食品廃棄物の不正転売事案について（総括）」の詳細は、環境省のホームページに掲載されています。

<http://www.env.go.jp/press/104161.html>

森林再生事業 TOPICS

平成28年度森林・林業白書トピックス～新たな森林・林業基本計画の策定～

先月号のニューズレターにて、5月29日に林野庁が「平成28年度森林・林業白書」を公表したことをお伝えしましたが、白書の冒頭では6つのトピックスが紹介されています。今号ではその中から、「新たな森林・林業基本計画の策定」を取り上げて紹介します。

~~~~~

平成28年5月、政府は森林・林業政策の基本となる「森林・林業基本計画」を5年ぶりに変更しました。

戦後造成されてきた人工林の年間の成長量は、国内の木材需要量を満たすのに十分な水準になっていますが、十分に活用されていない状況です。また、我が国の人口は減少傾向にあり、特に山村地域の衰退が加速することが懸念されている状況です。

これらの状況から、林業・木材産業の成長産業化を早期に実現することが重要な課題となっています。

新たな「森林・林業基本計画」では、資源の循環利用による林業の成長産業化、原木の安定供給体制の構築、木材産業の競争力強化と新たな木材需要の創出に向けた取組を推進することとしています。

また、林業・木材産業の成長を通じて地方創生への寄与を図るとともに、地球温暖化の防止や生物多様性の保全への取組を推進することも内容に盛り込んでいます。

**森林・林業基本計画の対応方向**

- **資源の循環利用による林業の成長産業化**
  - ・ 自然条件・社会的条件の良い育成単層林での先行的な路網整備、再造林対策の強化等を通じ、林業の成長産業化を早期に実現
  - ・ 奥地水源林等の高齢級人工林で、複層林化を効率的に推進するなど、公益的機能を高度に発揮
- **原木の安定供給体制の構築**
  - ・ 森林施業及び林地の集約化、主伐・再造林対策の強化等による原木供給力の増大、川上と川中・川下のマッチング円滑化を推進
  - ・ 林業事業者の生産性と経営力を向上させる取組を推進
- **木材産業の競争力強化と新たな木材需要の創出**
  - ・ 無垢乾燥材や集成材、国産材率の低い横架材等の利用促進、地域材（A材）の高付加価値化等を通じ、木材産業競争力を強化
  - ・ C L T等の開発・普及、非住宅分野での木材利用、木質バイオマスの利用、東京五輪を契機とした木材利用のPR等を推進し、新たな需要を創出
- **林業及び木材産業の成長産業化等による地方創生**
  - ・ 林業及び木材産業の成長産業化、特用林産物の生産振興や自伐林家の取組の推進など地域資源の活用、地域活動としての森林の保全管理を推進
- **地球温暖化対策、生物多様性保全への対応**

（以上、平成 28 年度森林・林業白書 2 ページより抜粋・一部加工）

SEF では、国の森林・林業政策の基本方針を踏まえつつ、保全協定を締結している各地域の状況に応じて、地域にあった活動計画を立案し、森林保全活動を推進しています。

「平成 28 年度森林・林業白書」は、林野庁のホームページから閲覧・ダウンロードが可能です。  
<http://www.env.go.jp/press/104161.html>

## SEFからの おしらせ

### 【資源循環事業】

#### 受講者募集中！第2回は7月20日（木）開催 『ゼロエミッション研究会（第1期）』

排出事業者の立場から廃棄物・資源循環の課題に“本気”で向き合い、解決への道筋を導き出すことを目的とした「ゼロエミッション研究会（第1期）」。第1回は弁護士の佐藤泉先生を迎え、6月20日に開講しました。第2回は下記の概要にて開催予定です。残念ながら初回にご参加頂けなかった方も、初回の講演・ワークショップの様子を記録したDVDをご用意しておりますので、ぜひお申し込みください。

# ゼロエミッション研究会（第1期）第2回 開催概要

## 日程

平成29年7月20日（木）

15:00～18:00（受付14:30～）

## プログラム

15:00～16:30 講演

（千葉県 元産廃Gメン 石渡正佳氏）

産廃Gメンが見た廃棄物管理の裏側 ～日本の廃棄物処理システムの課題～

<石渡正佳氏 プロフィール>

現:千葉県県土整備部葛南土木事務所事務次長。日本大学経済学部卒業、1981年千葉県入庁。1996年から産業廃棄物行政を担当、産廃Gメン「グリーンキャップ」の創設に関与。2001年から不法投棄常習地帯といわれた銚子・東総地域の監視チームリーダーとして短期間で同地域の不法投棄ゼロを達成。主な著書に『産廃コネクション』（WAVE出版）、『産廃Gメンが見た食品廃棄の裏側』（日経BP社）など。



16:30～18:00 ワークショップ

（ファシリテーター：株式会社ガイアドリーム代表取締役 志岐秀明氏）

～排出者責任強化の理由と今後の対応①～

<志岐秀明氏 プロフィール>

過去の経験から多くの排出事業者と処理業者のネットワークを構築し、1998年にはゼロエミッション研究会を主宰、企業のリスクヘッジとリサイクルシステム構築などを手掛けた。現在は、「真価追求」をテーマに、子どもたちの未来のため、環境ソリューション事業を中心としてアドバイスや人材教育を行っている。さらに今年からは、廃棄物処理のみならず環境経営全般から地域活性化につながる事業を展開する。



## 会場

トレジャーリンク会議室 東京都中央区京橋 2-6-16 エターナルビル 3F

<アクセス> 【銀座線】京橋駅 6番出口徒歩 1分

【浅草線】宝町駅 A6 出口徒歩 2分

【有楽町線】銀座一丁目駅 7番出口徒歩 5分

## 対象者・定員

対象者：企業の環境・総務部門担当者

定員：20名（先着順）

## 参加費

【年間受講料】一般：80,000円 会員・SEF-Netユーザー：50,000円

【1回受講料】一般：10,000円 会員・SEF-Netユーザー：6,000円

※年間受講料は、参加回数に応じた割引制度を設けています。

## お申込み

お申込みはお電話・FAX・メール・ホームページ、いずれでも承ります。御社名、お名前、ご連絡先を事務局までご連絡ください。

<http://save-earth.or.jp/archives/4764>

皆様のご参加をお待ちしております。

## 【森林再生事業】

7月・8月 森林保全活動のお知らせ

★★★★ボランティアさん募集中！★★★★



SEF では、各地域での森林保全活動をお手伝い頂けるボランティアさんを募集しています。千葉県山武市では原則として毎月第2・第4土曜日（東京駅から送迎いたします！）に定例活動を行っているほか、兵庫県丹波市、大分県臼杵市でも定期的実施しています。直近の活動は下記を予定していますので、ぜひご参加下さい。

### <7月・8月の活動予定>

➤ 千葉県山武市

7月…8日（土）、22日（土）

8月…26日（土） ※8月12日はお休みです。

★8月5日（土）山武市主催による森林体験イベントの開催が決定！

詳細は決まり次第ホームページにてお知らせします。ご期待ください！

➤ 兵庫県丹波市

7月…9日（日）

8月…19日（土）

## 「森活」しませんか？

### ～企業・団体向け森林体験プログラムのご案内～

SEF では、企業や団体の皆様向けに「森活」をご提案しています。私たちは「森での活動」を通して、仲間同士の交流を深めたり、自然に触れることで癒されたり、環境保全に貢献していることが実感できたりと、様々な効果につなげることができると考えています。

「森活」について、詳しくは事務局までお問い合わせください。

CSR活動の  
一環として  
【社会貢献】

森林の保全・活用に貢献して頂けることから、企業の CSR 活動の一環として取り組んで頂くと効果的です。

チームビル  
ディングに  
【研修として】

皆で共通の体験をもち、力を合わせてひとつの活動の成果を共有できるので、チームの関係性の基盤づくりや強化に役立てては、いかがでしょうか。

リラックス、  
リフレッシュ  
【福利厚生として】

森に入ると、空気が澄んでいるような感覚を覚え、さわやかなリラックスした気持ちになります。近年の研究では、「フィトンチッド」や「マイナスイオン」などによる効果であることが実証されてきています。



【森林再生事業】 日向の森（千葉県山武市）  
東御の森（長野県東御市）

今年も中高生対象の森林林業体験学習プログラム  
が始まりました！

郁文館夢学園様（東京都文京区）の中高生が参加する森林林業体験学習プログラムが始まり、6月は高校1年生と中学1年生のプログラムが実施されました。

『森から学ぶ』を全体テーマとし、森での体験活動から「持続可能な森づくり」「循環型社会」について、学び、考えることが目的です。

また、「アクティブ・ラーニング」や「森林ESDの推進」につながるプログラムの工夫も、今年度から試みられています。

高校1年生は[五感で感じる森の自然～ネイチャートレイル～]（東御の森、協力：NPO法人やまぼうし自然学校）と題して、初夏の河畔林を歩き川に入って水の冷たさを体感、気候温暖化の影響や外来植物が増えていることを学びました。

中学1年生は[森のおもしろさ発見～ネイチャーガイド～]（日向の森、協力：株式会社Biotop Guild）と題して、虫を観察したり谷津エリアで水生生物の採取をしました。

7月は東御の森にて、高校2年生向けプログラムの実施が予定されています。

